

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム		事業開始年度	平成21年度		作成責任者
担当部局庁	研究振興局		担当課室	情報課 計算科学技術推進室		計算科学技術推進室長 井上 諭一
会計区分	一般会計		上位政策	科学技術振興のための基盤の強化		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計 画、通知等	新成長戦略(平成22年6月閣議決定) 第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定) 新たな情報通信技術戦略(平成22年5月高度情報通 信ネットワーク社会推進戦略本部決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	次世代スパコン施設を中核として、我が国の研究開発そのものに革新をもたらすシミュレーション技術の開発と我が国の計算科学技術に関する研究ポテンシャルの結集の実現を目指すため、社会的・学術的に大きなブレイクスルーが期待できる分野(戦略分野)における研究開発や計算科学技術推進体制の構築に向けた取組を重点的に支援する。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	各戦略分野(※)における研究開発等を中心となって担う機関(戦略機関)を選定し、各機関が設定した戦略目標に沿って研究開発、計算科学技術推進体制の形成を実施。 (※)戦略分野・・・分野1: 予測する生命科学・医療及び創薬基盤、分野2: 新物質・エネルギー創成、分野3: 防災・減災に資する地球変動予測、分野4: 次世代ものづくり、分野5: 物質と宇宙の起源と構造、の計5分野					
実施状況	○平成21年度は、実施可能性調査として、研究開発課題や計算科学技術推進体制の構築に係わる実施計画を検討。具体的には、公募により「実施可能性調査機関」を5機関採択(応募11件)し、平成22年度の準備研究、平成23年度～平成27年度の本格実施に向けた実施計画を各機関で策定。 ○平成22年6月現在、各機関が策定した実施計画を有識者により評価中。評価結果を踏まえ、各分野における戦略機関を決定する予定。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	-	-	32	300	-
	執行額	-	-	27		
	執行率	-	-	84.4%		
	総事業費(執行ベース)	-	-	27		
自己点検	支出先・ 用途の把 握水準・ 状況	○平成21年度より、実施報告書の提出により進捗状況の調査・確認を行うとともに、額の確定において、支出先・用途について支出1件毎に詳細に確認。				
	見直しの 余地	○実施可能性調査段階における実施計画の評価において、実現可能性の低い課題や分野振興方策については改善策を具体的に提示させるなど、厳格な評価を行うとともに、準備研究段階においても、より具体的な取組状況について、戦略分野としての知見創出、次世代スパコンへの最適化及び分野振興の実現可能性の観点から、有識者により評価、改善指導を実施すべき。 ○本事業の実施に当たっては、「グランドチャレンジアプリケーション開発」事業、「イノベーション創出の基盤となるシミュレーションソフトウェアの研究開発」事業との役割分担の整理・明確化を図ったうえで、連携して事業を進めるべき。				
予算監視・ 効率化 の所見	1. 事業評価の観点: この事業は、社会的・学術的に大きなブレイクスルーが期待できる戦略分野において、次世代スーパーコンピュータを中核として利用した研究開発の支援等を行う研究開発に関連した公募型事業である。 2. 所見: 平成23年度から本格実施に移行するが、革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラに関する多様なユーザーニーズをよりの確に反映させるため、いったん廃止しグランドチャレンジアプリケーション研究開発事業と整理統合すべきである。その際、実施計画の内容及び準備研究の進捗状況に対する厳格な評価を実施するなど、事業の効率化を一層進めるべきである。					
補記	○平成21年度の執行率が低い理由は、次世代スパコン計画の事業仕分け(昨年11月)による事業の見直しのため、本事業の執行時期を遅らせた結果、業務計画に変更が生じたことによる。					

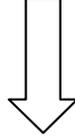
文部科学省

27百万円

〔 戦略機関を中心に戦略分野の研究開発の実施。 〕

諸謝金 1.3百万円
職員旅費 0.2百万円
外国旅費 0.7百万円
委員等旅費 1.6百万円
庁費 1.1百万円

計5百万を含む



【公募・委託】

A. 戦略プログラム事業

大学・独立行政法人(全4機関)

22百万円

〔 事業概要:
戦略機関を中心に戦略分野の研究開発に取り組む。平成21年度は実施可能性調査を
実施。 〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位:百万円)

A. 東京大学					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅費	国内旅費	5			
人件費	業務担当職員	2			
業務実施費	消耗品、印刷製本費、諸謝金等	1			
間接経費		0.9			
雑役務費	ホームページ作成	0.3			
計		9	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

A: 次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム

	支出先	支出額(百万円)
1	国立大学法人東京大学	9
2	国立大学法人筑波大学	5
3	独立行政法人海洋研究開発機構	4
4	独立行政法人理化学研究所	3
合計		22

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。